

2018年度 早稲田大学大学院教育学研究科
 博士後期課程 専門職業人入学試験問題 [小論文]
 【教育基礎学専攻】

解答上の注意

1. 教育基礎学専攻の入学試験問題は、出願時に届け出た指導教員の欄に従い、下記の表の解答すべき問題を解答しなさい。

志願票に記入した研究指導名	志願票に記入した指導教員名	解答すべき問題・ページ
教育学研究指導	藤井 千春	設問 (P.2)
教育学研究指導	湯川 次義	
教育学研究指導	坂倉 裕治	
教育学研究指導	長島 啓記	
教育学研究指導	小松 茂久	
教育学研究指導	吉田 文	設問1～設問3 (P.3) の中から1問解答
社会教育学研究指導	小林 敦子	
社会教育学研究指導	前田 耕司	
社会教育学研究指導	矢口 徹也	
教育心理学研究指導	上淵 寿	設問 (P.4)
教育心理学研究指導	堀 正士	
教育心理学研究指導	椎名 乾平	
教育心理学研究指導	坂爪 一幸	
教育心理学研究指導	本田 恵子	
教育心理学研究指導	梅永 雄二	
初等教育学研究指導	河村 茂雄	設問1～設問2 (P.5) の中から1問解答
初等教育学研究指導	佐藤 隆之	

2. 解答用紙の所定欄に、研究指導名・指導教員名・受験番号・氏名を必ず記入すること。
3. 解答用紙が複数枚配付された場合、ホッチキスははずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
4. 問題用紙は「5枚」（本ページ含む）、解答用紙は「1枚」です。必ず枚数を確認すること。

以 上

2018年度
早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題
専門職業人入試 科目名 小論文（教育基礎学専攻）

当問題は、以下の研究指導を志願する専門職業人を対象とする。

教育学研究指導（藤井千春）、教育学研究指導（湯川次義）、教育学研究指導（坂倉裕治）
教育学研究指導（長島啓記）、教育学研究指導（小松茂久）

設問 「資質・能力」とは何か。また、それらはどのような学習指導によって「育成」が可能になるか。「答申」などの文章や文言にそのまま依拠することなく、自分自身の考えを論理的に展開して説明しなさい。

2018年度
早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題
専門職業人入試 科目名 小論文（教育基礎学専攻）

教育学研究指導（吉田文）、社会教育学研究指導（小林敦子、前田耕司、矢口徹也）志願者

問題 次の3つの設問のうちから1問を選択して答えなさい。答えは、別紙解答用紙に、
選択した設問の番号を付して記入しなさい。

設問1

日本では、アイヌ語に加えて八丈語や琉球諸語が消滅の危機に瀕する言語とされる。
これらの少数言語の維持・復興に向けて、社会教育としてどのような取り組みが考えられる
か。あなたの見解を論述しなさい。

設問2

学校教育と社会教育の連携が、現在、重要な課題となっている。こうした状況の中で、社会教育施設としての博物館は
どのような役割を果たすべきか。自由に論じなさい。

設問3

高等教育機関における社会人の学び直しが政策として推進されているが、2017年度において、大学学
部在学者のうち25歳以上は0.6%、大学院における社会人院生は18%と量的規模は小さい。この値は、
OECD諸国のなかでも際立って低い。なぜ、日本では社会人の高等教育機関における再教育が拡大し
ないのか、その理由について論述しなさい。

2018年度
早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題
専門職業人入試 科目名 小論文(教育基礎学専攻)

次の【設問】は、以下の研究指導の志願者を対象とする、

教育心理学研究指導

(堀 正士)、(椎名乾平)、(坂爪一幸)、(本田恵子)、(梅永雄二)、(上淵 寿)

解答は、別紙解答用紙に解答すること

【設問】平成28年厚生労働省の調査によると、就職後3年以内の離職率は、中卒者が67.7%、高卒者は40.8%、大卒者が32.2%となっている。離職者が多い背景について心理学的に説明しなさい。

出典 厚生労働省 HP (2018年 1月9日最終確認)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html>

2018年度
早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題
専門職業人入試 科目名 小論文(教育基礎学専攻)

2018年度
早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程入学試験問題
専門職業人入試 科目名 小論文(教育基礎学専攻)

次の【設問】は、以下の研究指導の志願者を対象とする。
初等教育学研究指導
(河村茂雄)、(佐藤隆之)

問題 次の二つの設問について、どちらか一つ答えなさい。答えは別紙解答用紙に、選択した設問の番号を記した上で記入しなさい。

設問 1 新学習指導要領(平成29年3月公示)では、これからの変化の大きな社会で生きていく力として、資質・能力の育成の必要性が示され、主体的・対話的で深い学びのある学習活動が求められるとされている。そのために、あなたなら授業でどのような工夫をするのかを、関わっている学校種の児童生徒・学生の発達段階や実態を踏まえて、具体的な例をあげて説明しなさい。

設問 2 公教育において望まれる市民性教育には、「(共通の価値を内面化した)善人を作ろうとする」ものと、「(多様な信念をもつ)よき市民を作ろうとする」ものの二つがあると指摘されている。(広田照幸『教育は何をなすべきか—能力・職業・市民』岩波書店、2015年、167頁。)現在の日本において必要とされるのはどちらのタイプの市民性教育か。あなたの意見を述べなさい。